

新潟ビッグスワンへ！20年ぶりの更新を！

★埼玉勢800mで唯一のインターハイ進出

「長距離種目90年代の春高記録超え」を目標に、ここ数年活気がみられるロングチーム。2010年に3000mSCで大久保が春高記録を突破してインターハイ出場を決めた。そして今また800mでの記録更新を視野に入れているのが入山である。現在の春高記録は1992年、黒川の持つ1分55秒16。あと0.4秒にまで迫った入山は、非常に勝負強い。400mも50秒ほどで走れるスピードを武器に、ラスト勝負で競り勝つレース巧者である。群馬敷島で開催された関東の決勝も見事に2位通過。800mの埼玉勢では、ただ一人のインターハイ出場を決めた。インターハイ予選レースでは、みな力は拮抗。ラスト150mあたりからのダッシュによる着順狙いとなるであろう。当然1分54秒台でないと通過はできないであろう。自身も800m選手であった森丘（40回）と予選レースをシュミレーションしていた。是非、悲願の54秒台とセミファイナル以上へ進出してほしいものだ。



トラック種目での、勝負強さは  
最高の武器



今年は小学生県予選が1週間ずれたので、岩槻ACをまとめる嵯峨根さんもいらっしやう。OB 会副会長を長く務める嵯峨根さんは、小学生の育成にあたり、競技の普及活動に尽力している。そしてその小学生たちがいずれ高校受験になった時、春高を選択してくれれば・・・という思いもある。もう全国小学生大会で女子幅跳び入賞者を輩出している岩槻ACは、ここ数年、埼玉のU12を賑わす活躍をするのは間違いないであろう。



今年の新入生紹介で、走り高跳びの選手が多かったのはうれしかった。跳躍班も層が厚くなれば競技力向上は必定。非常にたのしみである。その高跳びの新入生が目指す「春高記録」は当の嵯峨根さんの1 m 9 5 c mである。嵯峨根さんいわく「跳躍春高記録の幅跳び、三段跳び、棒高跳びはどれもがインターハイ入賞（優勝、3位、6位）記録。高跳びだけ、早く何とか更新してほしい・・・（苦笑い）」是非、今年の新入生たちに成し遂げてもらいたい大きな目標だ。

幅跳び、高跳びの春高記録を持つ嵯峨根副会長。

1978年滋賀インターハイの決勝でマークした7m30は更新される気配すらない。

現OB会長の梶さんが挨拶した。「春高は本当の意味で文武両道を達成してほしい」・・・と。

分業して「文だけ10割の学生、武だけ10割の学生、学校全体で両道」を謳うのでなく、個人の中で5割ずつでいいから勉強とスポーツをやり遂げてほしいと。

入山に激励を送る梶OB会長。自身も7mジャンパーとして2度のインターハイ出場経験がある。元4×200mRの日本中学記録保持者でもある。



今年から春高校長に就任された工藤さん（26回）も、OB会でご挨拶していただいた。「春高は入学してから、個人を伸ばす高校。進学が目標なのでスポーツとのバランスをうまくとって、両立を図りたい。春高の教師陣は個々にスキルが高く、セミナーに通って指導方法を向上させている。生徒全員を向上させるつもりでいく」リーダーとして非常に頼もしいコメントに感激した。



6月の春高祭の時、臍脂の集を一緒に観たとき、工藤先輩にはお話を聞くことができた。

工藤さんご自身も800mのインターハイ選手。

1600mRでは関東で優勝している。ちなみに90年代、800m、1500m、5000m、3000SCの春高記録を作り上げたのは、この工藤先生の教え子たちである。

★監督を慕う事。 互いの敬意が重要

春高インターハイ覇者第一号の後藤 均さんは言う。「原点は監督を好きになる事」だとあげた。「監督を慕えば、練習も楽しくなる。仲間とも仲良くなれる。チームに愛情が沸く。チーム全体が強くなる。・・・」

関東総合3位のチームを作り上げた大塚監督を信じて邁進すれば安心だ。



私は自問自答した。卒後30年もたって、なぜ今ここにいるのか？

それは、このクラブ、監督や先輩後輩が好きだからである。いやな思い出があったら中年になってまで母校に集まるはずもない。みな恩師、先輩後輩が好きなのだ。

恩師を慕う心

これが途切れる事なく続く、春高陸上部の「原点」である。

